

とっとり集落創造シートのモデル別シミュレーション

平成27年3月
とっとり暮らし支援課

とっとり集落創造シートは、集落のコミュニティを再生するきっかけとして、集落住民が話し合うためのツールとして本県が開発したものです。

1. とっとり集落創造シートとは

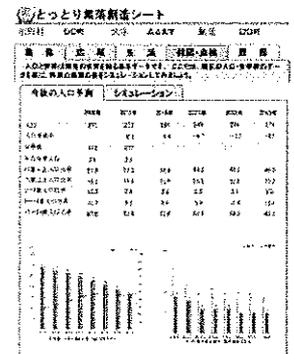
自治組織の最小単位である集落の話し合いの場を促進するため、集落の状況を客観的に把握でき、集落の能動的な話し合いを促進することができる支援ツール。集落の将来の姿（人口、高齢化率等）を把握し、集落の生活状況を共有しながら、集落の「良いところ」「困りごと」を明確にし、集落の話し合いによる合意形成を経て、集落の目指す方向性を探ることを期待するもの。

人口推計:住民基本台帳人口要覧 2008年4月及び同 2013年4月を基に 2008年～2043年の推計を集落毎及び旧村単位に行い、10年後も今と同じ人口を維持するために必要な定住組数（30～34歳男子1人、30～34歳女子1人、0～4歳男子0.5人、0～4歳女子0.5人）を示した。

データ項目:人口、人口増減率、世帯数、平均世帯人口、65歳以上人口比率、75歳以上人口比率、0～4歳人口比率、0～14歳人口比率、15～64歳人口比率の計9つである。

2. シートの構成

- ①集落（人口推計）：集落単位の現状及び30年後の人口、人口増減率、世帯数・人口、各年代層比率の推移
- ②集落（シミュレーション）：10年後も今と同じ人口を維持するために必要な定住人口
- ③広域（人口推計）：小学校地区単位の現状及び30年後の人口、人口増減率、世帯数・人口、各年代層比率の推移
- ④広域（シミュレーション）：小学校地区単位の10年後も今と同じ人口を維持するために必要な定住人口
- ⑤集落の生活：現在の集落の状況と20年前の状況を、住民で話し合いながらデータを作り、比較しながら集落の良いところや困りごとを把握
- ⑥確認・点検：現在の集落の地域づくりがどのような段階か確認し、今後どうしていくのか話し合う。
- ⑦履歴：集落での話し合い経過等を記録



3. シート作成の状況（12市町 659集落、平成27年2月現在）

市町名：南部町、伯耆町、日南町、江府町、岩美町、鳥取市（佐治町、気高町、鹿野町、用瀬町）、倉吉市（関金町、北谷地区、明倫地区）、三朝町、北栄町、若桜町、日野町、大山町（作成順）

とっとり集落創造シートによる地域別の状況

H27.3.3 とっとり暮らし支援課

県内の標準的な農村、山村、漁村地域を例に、今後の人口予測と現状の人口を維持するために必要な世帯員（30歳代前半夫婦と子1人）を比較した。

区分 地域	2013年				2014～ 2018年ま で5年間 の移住者 受入	2018年				2043年		
	人口 (人)	世帯 数	若年 比率 (14歳 以下)	高齢 化率 (65歳 以上)		人口 (人)	人口減少 率 2018/201 3	若年 比率 (14歳 以下)	高齢 化率 (65歳 以上)	人口 (人)	若年 比率 (14歳 以下)	高齢 化率 (65歳 以上)
農村												
西部 中山間地	543	194	4.2%	44.4%	現状のまま	478	▲12%	4.9%	51.6%	198	2.9%	70.3%
					有：20組*	538	-	8.1%	45.9%	541	18.2%	26.0%
山村												
西部 山間地	678	307	5.0%	54.1%	現状のまま	586	▲13.5%	4.2%	58.1%	211	1.8%	65.6%
					有：32組*	682	-	8.3%	49.9%	750	18.1%	18.0%
漁村												
東部 海岸部	518	174	8.5%	32.6%	現状のまま	493	▲4.8%	8.3%	37.4%	330	7.3%	49.5%
					有：8組*	517	-	9.5%	35.7%	518	13.7%	32.0%

【参考】

農村												
中部 平坦地	3,338	1,093	11.7%	30.9%	現状のまま	3,188	▲4.5%	12.0%	35.0%	2,157	10.4%	42.3%
					有：52組*	3,344	-	13.0%	33.4%	3,270	16.3%	28.0%
まちなか												
中部 市街地	3,828	1,736	9.1%	37.8%	現状のまま	3,531	▲7.8%	8.9%	41.2%	2,062	10.8%	47.3%
					有：97組*	3,822	-	16.2%	38.1%	4,072	18.5%	24.0%

※5年毎に数値の世帯数を移住又は集落内に留めれば30年後も現在の人口維持が可能。

【考察】

人口減少要因は農村、山村、漁村によるものではなく、地域の立地条件によるところが大きいものと思料される。

理由

中山間地域の農山村地区の人口減少率は、12～14%程度。
漁村地区は、平坦地区やまちなか地区の人口減少率とほぼ同様の数値4～8%を示している。